

2017年1月8日(日)朝10:10～  
1月第2共同主日礼拝式説教

主の降誕節第3、役員会等  
日本アライアンス庄原基督教会

説教題：**第7の封印について、  
額に神の印を受けた者の幸い**

聖書：ヨハネの黙示録 9章1～12節

＜口語訳＞

新約聖書395頁

ヨハネの黙示録 9章1～12節

＜新共同訳＞

新約聖書462～463頁

ヨハネの黙示録 9章1～12節

＜新改訳第3版＞

新約聖書485～486頁

ヨハネの黙示9章1～12節＜塚本訳＞

新約聖書796～797頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による  
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、  
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」とありますように、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通して(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録されたものと理解されています。
- ◇ヨハネ黙示録1章では、神の御子イエス・キリスト様の再臨信仰を励ましのことばと神の御子の愛の思いの啓示、2章～3章は、エペソ教会外7つのアジアの教会への手紙、4章は、4つの生き物と24人の長老の讚美、5章は、「天の御座の父なる神の右手の封印の巻物」を開封できる屠られた仔羊(羔羊)礼拝と天の大讚美、6章は、「さばきの巻物」第1～6巻開封、7章は、144,000人の戦いと神の御座の前での大群衆の大讚美挿入、8章1～6節は、第7巻開封前の静寂と聖徒を助ける御使の祈り、御使いのラツパと神の裁き、10～13節は、神の裁き第2段です。
- ◇ヨハネの黙示録9章1～12節は、第5のラツパと人間を害する蝗による神の裁きです。

本論；

◇本日、ヨハネ黙示録第9章1～12節から主の使信に思い・心をとめます。

◆黙示録9章1～12節；ヨハネは、第7巻開封と御使いの第5のラツパと蝗による神の裁きが行われるのを見ました。

◇1～12節；塚本訳◆第5のラツパ-蝗  
(いなご){第一の禍}

「1 (やがて)第五の御使いがラツパを吹いた。すると私は(今し)天から地上に落ちた(一つの)星を見た。それに奈落の坑(あな)の鍵が与えられた。

2 そしてそれが奈落の坑(の戸)を開けると、大きな炉の煙のような煙が(もうもうと)坑から立ち上って、太陽も空気も(その)坑の煙で暗くなった。

3 そして、煙の中から蝗(の大軍)が地上に出て来た。それに地の蝸が有っている力のような、(人間を苦しめる)力が与えられた。

4 そして地の草も、あらゆる緑のものも、あらゆる樹も害せず、ただ額に神の印の無い人間(だけ)を害するように言われた。

- 5 且つそれを殺すのではなく、(ただ)五か月の間苦しめること(だけ)が許された。彼らの苦痛は蝮(さそり)が人を刺した時の苦痛のようである。
- 6 そしてそれらの日において、人間は(苦痛のあまり)死を求めるけれども、決してそれを見出さないであろう。死のうと切に望むであろうけれども、死は彼らから逃げる。
- 7 蝮の外観は戦争の用意をした(軍)馬に似て居り、その顔には金に似た(輝きを有つ)冠のようなものがあつた。またその顔は人間の顔のようであつた。
- 8 女の髪の毛のような髪の毛があり、その歯は獅子の歯のようであつた。
- 9 また鉄の胸鎧(むなよろい)のような胸鎧を著け、その羽音は戦車と多くの馬とが戦争に駆け行く音のようであつた。
- 10 そして蝮に似た尾と刺があり、その尾(の刺)に五か月の間人間を害する力がある。
- 11 彼の上に王がある。奈落の使いであつて、その名をヘブライ語では破壊者(といい)、ギリシヤ語では破壊者という。

12 (斯くして)第一の禍は過ぎた。(しかし)視よ、この後なお二つの禍が来る！」と、ヨハネは神の御座の前の光景を啓示されました。

◇ 1～2節；ヨハネは「天から地上に落ちた(一つの)星を見た」が、「その星」に「奈落の坑(あな)の鍵が与えられ」、「奈落の坑(の戸)を開けると、大きな炉の煙のような煙が(もうもうと)坑から立ち上って、太陽も空気も(その)坑の煙で暗くなった」のです。

⇒「星」が、「奈落の坑(の戸)を開ける」と、「煙が(もうもうと)坑から立ち上って、太陽も空気も(その)坑の煙で暗くなった」といい、火山の大爆発を連想させる凄まじい現象が連想されます。

⇒「星」は、1章では、7つの教会の天使でしたが、8章10～11節では、「苦艾”Αψιθυθος」の名を持ち、川の水を苦くしました、9章では、「奈落の坑(の戸)を開ける鍵」を持つ者として、登場しています。

⇒「星」は、悪の使者で、「奈落の坑のもの」で人間にわざわいを与える者となっています。

◇ 3～6節 ; 「煙の中から蝗(の大軍)が地上に出て来た。それに地の蝸が有っている力のような、(人間を苦しめる)力が与えられ」、「地の草も、あらゆる緑のものも、あらゆる樹も害せず、ただ額に神の印の無い人間(だけ)を害し」、「それを殺すのではなく、(ただ)五か月の間苦しめること(だけ)が許された。彼らの苦痛は蝸(さそり)が人を刺した時の苦痛のようであり」、恐ろしいことは、「人間は(苦痛のあまり)死を求めるけれども、決してそれを見出さないであろう。死のうと切に望むであろうけれども、死は彼らから逃げる」というのです。

⇒ 「奈落の坑から出てきた蝗」は、「地の蝸が有っている力」、「(人間を苦しめる)力が与えられ」、「地の草も、あらゆる緑のものも、あらゆる樹も害せず、ただ額に神の印の無い人間(だけ)を害する」という「人間が食用にできる蝗」ではなく、しかも、「死のうと切に望むであろうけれども、死は彼らから逃げる苦痛」を「額に神の印がない人間」に与える目的で、「奈落の坑」から出てくるのです。

◇7～12節；人間を害する蝗の「戦いの態勢」が描かれ、「蝸の外観は戦争の用意をした(軍)馬」で、「金に似た(輝きを有つ)冠」をもち、「人間の顔」し、「女の髪の毛と獅子の歯」を備え、「鉄の胸鎧(むなよろい)」を着け、「戦車と多くの馬」が、「駈け行く音・羽音」を有するという奇怪な姿をもっているのです。

⇒「蝗」は、**実用聖書註解書**や**OS師**によると、旧約聖書では、10種類の言語が用いられ、破壊力、飲み尽くす、駈けめぐる、とどめをさす、群がる、刈り手など多様な意味をもって使用されていて、**7～12節**にある「蝗」の姿を示すものとなっています。

⇒これらの「蝗」によるわざわいは、「**額に神の印がない人間**」への**神の裁き**であることを、心にとめると同時に、「**第7のラツパ**」が吹かれる時の大きな声や24人の長老たちの**神礼拝の告白・祈りのことば**をともにできるように祈ることを怠ってはならないのです。

⇒ヨハネ黙示録11:15c～17；「15c(やがて)第七の御使いがラツパを吹いた。すると(沢山の)大きな声が天に起こってこう言うた—

—(今や)この世の王国は我らの主(なる神)とそのキリストの有となった。彼は永遠より永遠に王となり給うであろう。

16 すると神の前でその座に坐っていた二十四人の長老が平伏し、神を拝して

17 言うた——主なる全能の神、(今)在り給う者、(昔)在り給いし者、貴神が(再び)その大なる権能を取り(自ら)王となり給うたことを感謝する。」と。

⇒「**暗闇**」も、「**苦痛**」も、私たちにとって好ましいものではなく、「**奈落の使い**」、「**破壊者アポリュオン**」の到来を期待する者ではありませんが、「**五か月の間苦しめる**」限定の裁きであることにも、人々が耐えられるように祈りつづけて生きたいと願います。

⇒「**額に神の印を受けた144,000人**」の基本は、**神の民イスラエル**です。

⇒私たちは、**神の御子イエス・キリスト様の十字架の死と復活のゆえに憐れみに与っている者**であることを忘れないでいたい。

⇒**神の子とよばれる神の恵み**は、この厳しい**神の裁き**を前にしてこそ真摯に覚えたい。

## 結論；

- ◇**神**は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇**ヨハネの黙示録**は、1章1節、「**イエス・キリストの黙示**」とありますように、**神の御子イエス・キリスト様**が、**天使**を通して(1)、**長老・使徒ヨハネ**に与えた「**神の国到来の奥義**」の黙示で、**ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代**に記録されたものと理解されています。
- ◇**ヨハネ黙示録1章**では、**神の御子イエス・キリスト様の再臨信仰を励ましのことば**と**神の御子の愛の思いの啓示**、**2章～3章**は、**エペソ教会外7つのアジアの教会への手紙**、**4章**は、**4つの生き物と24人の長老の讚美**、**5章**は、「**天の御座の父なる神の右手の封印の巻物**」を開封できる屠られた仔羊(羔羊)礼拝と**天の大讚美**、**6章**は、「**さばきの巻物**」**第1～6巻開封**、**7章**は、**144,000人の戦いと神の御座の前での大群衆の大讚美挿入**、**8章1～6節**は、**第7巻開封前の静寂と聖徒を助ける御使の祈り、御使いのラツパと神の裁き**、**10～13節**は、**神の裁き第2段**です。

- ◇ヨハネの黙示録9章1～12節は、第5のラツパと人間を害する蝗による神の裁きです。
- ⇒神の裁きは、「神に聴き従うことを拒む者」には、回避できない出来事です。
- ⇒併し、神の圧倒的な恵みによって「神の子」と呼ばれ、「額に神の印を受けた者」と認められ、「今あるは神の恵み」と、神に感謝し、讚美できることを喜び合いたいとねがいます。
- ⇒OS師が語っておられますように、「神の御子 イエス・キリスト様」によって、第1の死の次に第2の死があることを知らされた者だからこそ、第1の死を神の恵みとして受ける者にされたことを忘れないようにしたい。
- ⇒しかも、「第2の死」も、「奈落の坑」も、「神の子たち」には無力とされていることを確信をもって告白できることを感謝したい。
- ⇒OS師お勧めの讚美歌63番の2を讚美しましょう。